



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

55 音楽祭プログラム (9/21)

オープニング
司会&主催者あいさつ
唯一無二ゆ with ローカル線
ブービーバンド
Periodista
ういみん
Kako♡Mika
企：メーデー合唱団
パールライス
ローカル線
企：笠木博逸をうたう sing! sing!
ス：サンレレラバイ
Rico & Tatsu
林音協
日音協青森県支部
日音協香川県支部
日音協岩手県支部
日音協福島県支部
日音協茨城県支部
日音協長野県支部
日音協新潟県支部
日音協東北ブロック合同
ゲスト：前花雄介
ス：山城博治

55 音楽祭プログラム (9/22)

コロニーにいがた
よしもとけんじ
日音協東京都支部
日音協九州支部
日本私鉄労働組合総連合会
自治労音楽協議会
ス：Naomaria
企：若い会員の交流会
合唱団ミール
日音協秋田県支部
FM カンパニー
日音協沖縄県支部（沖縄協）
エンディング

主催 第55回はたらくものの音楽祭 中央実行委員会 / 第55回はたらくものの音楽祭 沖縄県実行委員会

第55回はたらくものの音楽祭

The 55th music festival of workers

音楽は世界を変える

Music changes the world.

沖縄の
チムグクルをあなたへ

2024年 9月21日(土) 大音楽会Ⅰ
13時開会

9月22日(日) 大音楽会Ⅱ
10時開会

ゲスト 前花雄介 (シンガーソングライター・石垣島出身)

那覇文化芸術劇場なは一と小劇場
那覇市久茂地 3-26-27
入場無料

問い合わせ・連絡先 090-1942-9690
平良昌史 (那覇市職労委員長)

詳細はこちらからご確認ください

イクサユン シマチ、ミルクン ヤガディ
(せんそうは もうじきおわる、へいめでゆたかな ときがくる)

ナギクナヨ シンカ、ヌチドゥ タカラ
(なくなよ みんな、いのちこそ たから)

脚本『おきなわ 島のこえ』 作 丸木俊 丸木位里 (小崎書店) より



ゲスト 前花雄介さん

石垣市宮良出身。民俗学者の祖父・八重山民謡「とぅばらーま」チャンピオンの父と弟を持ち、八重山の歴史や自然、文化などをオリジナルで歌うシンガーソングライター。

≪ 出演順などは変更になる可能性があります。 ≫



古典琉舞「かぎやで風」

全国交流会の幕開けで披露する予定です。那覇市職労の組合員の皆さんに舞っていただきます。

交流会は、カチャーシーで締めたいと考えています。

夏、FMカンパニー、反核・平和を歌う



北海道の今年の夏は本州に比べるとなんとも過ごしやすい。そんな中FMカンパニーは8・6のダイ・イン集会と8・15のアジア太平洋戦争犠牲者の追悼集会で、反核・平和を誓い熱く歌いあげた。

会場はともに、札幌の中心部の大通公園西3丁目公園ひろば。8・6ダイ・イン集会では朝の7時30分からの演奏で「戦争はNO!」「原爆に未来なし」「あたりまえの地球」「武器を捨てて」「最後に「鳩よ舞い上げ」を歌い、集会では「原爆を許すまじ」を全体合唱した。



右翼の街宣車の挑発にも怯まないで歌う朴保



8・15追悼集会では、朴保（パクポー）が応援演奏に駆けつけ「HIROSHIMA」など戦争の悲惨さを訴えた。

原爆投下、敗戦から79年が経過してもなお地球上では核兵器の脅威に覆われ、紛争、戦争が絶え間なく続いている。自分たちに出来ることは、小さい行動かもしれないが続ける事が一番大事なことだ。



楽しく準備しています

はいさい！ 沖縄の平良です。

沖縄音楽祭の準備を6月から精力的に進めてきました。県内労組への働きかけ、音楽関係者への出演交渉、県実行委員会の結成、各団体への協賛広告と参加呼びかけ依頼、マスコミへの県民への告知など、相手の感触で一喜一憂しながら対応しています。

沖縄は遠隔であり出演者が少なくなるのではと心配していましたが、前年度並みの申込があり、ほっと胸をなでおろしました。実行委員メンバーは明るく楽し活動しています。実行委員の中から、当日の司会者を決め、各任務の責任者を決めました。

音楽祭のグループラインを活用し日音協のメンバーといろいろと確認しながら準備を進めていきたいと思っています。



笑顔笑顔で、演奏の練習と打ち合わせ

琉球新報（8月27日朝刊）で取り上げられました

「南風(ふえーぬかじ)」⑩

めんそーれー沖縄へ チャンプルーの世界へ

沖縄県支部長 平良昌史

いよいよ沖縄音楽祭が近づいてきました。全国交流会も楽しみですが、その後の交流も是非お楽しみください。沖縄は、日本の南にあり、亜熱帯気候と風土、琉球王国の歴史で培われた独自の文化があります。また、沖縄は、中国の影響、大和の影響、東南アジアの影響、琉球処分までの日支両属（日本と支那両方に従属していた状態）があり、日本の統治、悲慘な沖縄戦、その後の米軍統治、そして日本復帰と時代ごとに様々な文化に触れ、それをチャンプルーして多様な文化を作り上げてきました。沖縄は小さな島であり、生き抜く知恵としてお互いに助け合うという文化（ゆいまーる）があり、出会えば兄弟（いちやりばちよーでー）と他者との関わりを大切にする文化があります。文化の基本は島言葉（しまくとぅば）であり、沖縄県では、しまくとぅばをのこして未来へつないでいくために、9月18日を「しまくとぅばの日」と決めて県民運動を行っており、那覇市では「ハイサイ、ハイタイ運動」を推進しています。沖縄の音楽は、琉球古典音楽と庶民が奏でる民謡、どちらも三線（さんしん）が使われています。青年会によるエイサーもお盆で各地域を回っています。南沙織にフィンガー5、安室奈美恵とアイドルを輩出し、HYにBEGIN、Kiroro といろいろなジャンルのミュージシャンがいます。カラオケでも沖縄ジャンルで楽しめます。沖縄の食文化も楽しみの一つです。豚は鳴き声以外全部食べると言われ、いろいろな料理に使われていますし、安いステーキ屋、庶民の野菜料理の「チャンプルー」や沖縄そば、北海道昆布の消費量も多い。沖縄で酒といえば泡盛、タイ米を醗酵させた蒸留酒で各地域に泡盛工場がある。有名なオリオンビールに地ビールもある。沖縄の夜は長い、タクシーも安いので、次の日に支障がない程度にチャンプルーな夜をお楽しみください。

はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話し 第12弾

坂口美日

沖縄音楽祭も本番直前となりました。音楽祭でステージ立れる方、是非お目通しください！

■リハーサル順が確定しました。リハーサルを希望されたグループは、申し込みされた方に通知していますので共有してください。

リハーサルは、サウンドと、演奏の気になる部分のチェックが主となります。演奏でチェックしたい箇所は、リハーサル開始時にその場で申告してください。

■舞台配置図提出ありがとうございました。

変更点などがありましたら、必ず下記まで連絡をお願いします。

090-7945-6400

p.mikann@nifty.com（坂口）

■第55回ははたらくものの音楽祭で、納得のいく演奏をするために！《特にリハーサルをしない演奏団体は必見です！》

【演奏スタート前】

① 電子楽器（エレキギター、ベース、キーボード、電子ドラムなど）、アコースティック楽器の順にステージに入ってください。演奏前に必ず音のチェックをし、改善してほしい場合は、その状態に応じ近くのステージスタッフまたは座席側にいるPAに大きな声で直接要望を伝えてください。

② 次にボーカル（歌手）の方に入ってください。マイクの高さが合わないと感じた場合は自分で調整してください。マイクからの距離は5cmが理想的です。

【演奏スタート直後】

このまま演奏を続行することに支障を感じた時は、躊躇せず手をあげ演奏を中止して、ステージスタッフまたはPAに、何をどうしてほしいか伝えてください。改善された後に演奏を最初からやり直してください。2曲目の発表曲の演奏形態が大きく違う場合も同様です。

※ただし、これができるのは演奏スタート直後です！



大宜味村の豊年祭で女性の皆さまが躍る「大宜味7月エンサー」です。右側の座っている4人の女性が太鼓をたたきながら昔からの歌を歌い、その周りを輪になって女性の皆さまが20分踊り続けます。（平良）

柏崎刈羽原発ハイロ全国集会

全国集会では、新潟県の検証委員会（環境経済研究所代表）が「もし原発が事故を起こしたら」とのテーマで講演され、原子力防災対策の不備を指摘しました。その後、柏崎（再稼働をめぐる情勢・議会報告）、福島（福島第一原発事故で新潟県へ自主避難）、石川

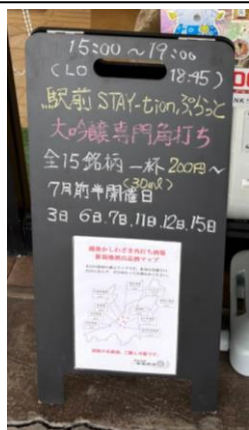
「中越沖地震17年 福島を忘れない！ 柏崎刈羽原発ハイロ全国集会」が7月15日、柏崎市産業文化会館（新潟県柏崎市）で開催され、東京から坂口さん、新潟から高野さん・高林さん、竹内の4人が参加しました。例年、中越沖地震が発生した7月16日に合わせて「県民集会」として開催されていますが、軟弱地盤に立つ柏崎刈羽原発の再稼働が秒読みとされる中、全国の仲間の廃炉を求める声を柏崎に結集するために「全国集会」として開催され、新潟県内、全国から約300人が参加しました。



（能登半島地震・志賀原発）の各地からの報告がありました。集会後、参加者とともに市街地でのデモに参加しました。出発前に、「あたりまえの地球」の音源を流して歌っていると、「いつも磯野さんたちとこの歌を歌っているんですよ」と富山から参加された方が声をかけてくれました。デモは、高林さんが日音協の旗を持ち、4人で反対のコールに合わせて声を上げて歩きました。

柏崎市議会、刈羽村議会では、再稼働に向けた請願が採択されるなど、再稼働に向けた動きが強まっています。集会前には、坂口さん、高野さん、竹内の3人で柏崎刈羽原発を望む海岸へ行き、改めて原発がある「現実」を実感しました。

そして、デモ終了後には嬉しいおまけも！ 昨年の長岡音楽祭・全国交流会でお世話になった「西巻酒店」のオーナーさんが、柏崎駅前のお店で好き酒のを出店をする日だったのです。もちろん、美味しくいただきましたよ！ やっぱ新潟のお酒は美味しい！



（坂口美日・竹内崇史）

第2回ピビンパフェスタ

「平和への願い」を歌にのせて 「音楽運動の場」の広がりを実感

「第2回ピビンパフェスタ」今こそ日朝友好の輪を！ 新潟・魂！ が8月10日、新潟朝鮮初中級学校（新潟市東区）で開催され、「日音協新潟県支部」として、板井さん、山本さん、山田さん、高野さん、高林さん、塙さん、竹内の7人が参加しました。

「ピビンパフェスタ」とのイベント名のとおり、伝統の炭火焼肉の美味しい匂いが会場で広がる中、暑さも和らいできた夕方、屋台やお化け屋敷もあり、楽しいお祭りの雰囲気でした。

「風車の唄」「平和と愛実へ」届け私たちの思い歌にのせて、再び戦場にせぬように、を演奏しました。そして、最後に演奏した、高林さんが作詞・作曲の「少年よ、灯を灯せ」では、会場と一体となって盛り上がりしました。



今回は、新潟県平和運動センター事務局長の有田さんからのお声掛けがあり、演奏させてもらいました。新潟県支部では、平和運動センターを通じて少しずつではありますが、「音楽運動の場」が広がっています。7月15日の柏崎刈羽原発全国集会後の有田さんとの打ち上げでも、「来年の全国集会での演奏」の話も出るなど、「平和への運動（想い）」を通じて、「音楽運動」の広がりを改めて感じました。

（竹内 崇史）



新潟県支部メンバー7人で演奏しました

水道橋 だより

▼「どん行」執筆の飯島さんからの感想が届きました。▼前号の朝日新聞から転載した詩で違和感2つ。▼一つは「戦争の副作用」。副作用というのは狙った効果とは違う症状がでてしまうもの。では、戦争の本作用とはなんでしょう。▼もう一つは「誰かが始めた戦争」。冷めた言い方で「自分は知らないよ」という態度。▼本当に関係ないのかどうか、深い視点が欲しいもの。(ということでした)▼いろんな視点で感じ、考え、伝えていきたいと思います。(佐藤)▼8月24日~25日。八戸市でも原爆写真展を開催した。▼昭和19年生まれだという男性は、小学校の授業で、映画館で「ピカドン」(だったかなあ)という映画を観た。女の子は泣き出してしまった。ショックだった。本当は、こんな写真を見るのは辛いし、見たくない。でも、年寄り仲間たちと「また戦争に巻き込まれなかったのは、憲法があったからだよなあ」と話しているそうです。(佐藤)

歌の力が物語るもの133

茉莢坂つた行動 8/23 (518回) 報告 Rico

【参加者】守屋さん、カオルさん、美野さん、イサさん、モッチー、鈴木さん、Fさん、通りすがりの女性 達哉、森

計10名

横断幕を広げていると、ひとりの男性が興味深げに見ていた。「ここは『国会前で歌う』の場所ですか?」と尋ねられ、戸惑いつつ「毎週金曜日歌っていますけど」と答えた。続けて「Sさんという方からうかがって」と言われて、それが「国会前で『民衆のうた』をうたおう」の会だとわかった。19時開始で、時間がずれているので私たちも茉莢坂のあとに参加してい

る。Sさんはそちらの中心人物のひとりだ。『民衆の歌』の開始時間にはまだ間があるので、それまでこの男性Fさんも茉莢坂で歌っていくことにした。

8月だから反戦の歌をと思い、今日は「死んだ男の残したものは」と「あの日」の楽譜をもっていた。『死んだ男の』はみんな知っているが「あの日」は初めて。木村和さん詩・熱田征一さん曲の歌。「八月の赤い花にだから問え兵士であつたあなたの父や兄たちは あの日どこで何をしていたか 罪のないものがどこの国でも どのように酷く

殺されていったか 死者はやさしく眠れるか」。短い言葉の中に、加害の視点がある。戦争は被害者だけではない。誰かへの加害者となることと一体。その怖さが突きつけられる。

ここ数日は嫌なニュースがいっぱいだった。原発ではデブリ取り出しに着手される予定が、まさかのパイプ接続順をまちがえるミスで中断。続けて「安全確保のために立ち止まった」と社長のドヤ発言。「順番確認もできてなかったくせに!」とニュース画面に突っ込んだのは私だけではないはず。デブリの総量は推定880トン。モッチーが「今回収しても耳かき一杯分」と言う、美野さんも「まだ何百トンもあるのに!」と怒りをあらわにした。

辺野古では、20日、大浦湾

での杭打ちが始まった。22日には、死亡事故が起きた安和棧橋の作業が再開。多くの機動隊員を投入し、抗議の人々を歩道に押し込めてトラックが一気に走り抜けている。あの事故の原因等々、発表も報道も何もない。「さらに浦添に軍港が造られるらしいよ」と守屋さんが東京新聞の記事を教えてくれた。

Fさんが歌いやすそうな曲をと、「ふるさと沖縄」「メッセージ」「DOO! 廃炉」を歌った。歌詞カードを見ながら楽しそうに歌ってくれて嬉しい。その後Fさんと守屋さんは『民衆のうた』に移動したが、茉莢坂では『私たちの暮らした私たちが決める』『明日を殺すな』等々歌い続けた。「今日を賣るために明日を殺すな」という歌詞をみんなでしみじみと噛みしめる。

いつも笑顔を向けて通り過ぎていた女性が今日は立ち止まってくれた。「1曲だけでも歌っていきませんか?」と誘い、アメイジンググレイスの替え歌『子供らの明日のために』を歌った。1曲だけだったけれど、ご縁に感謝だね。歌が誰かに届く。歌うことで繋がれる。私たちの行動は繋がっていく。これからがんばろう!

どん行

(182)

飯島貞親

僚が靖国神社を参拝し、岸田首相は玉串料を納めた。戦争を栄誉とせ、防衛の名で国に命をささげること推進しようとしている。

▼「新しい戦前」が進行している。防衛費を増額する動きに加え自衛隊の動きもききな臭さを増している。海上自衛隊練習艦隊の幹部らが今年5月、靖国神社を集団で見学していた。これまでも自衛隊幹部が部下と一緒に靖国神社を集団参拝した事実が判明し、太平洋戦争などの戦死者をまつて旧軍との関係が深い靖国神社と、自衛隊との密接な関わりが相次いで明らかになっている▼靖国神社は、かつて軍国主義の精神的支柱だった国家神道の中心的施設であり、太平洋戦争を「大東亜戦争」と言い換え、戦争末期の「特攻」を「わが国古来の霊魂不滅の死生観と武士道精神に支えられ、国家、民族の存亡の危機に際して表出した壮絶な戦法」と褒め称えている▼また、12億円もの国費を使って、強行された安倍元首相の国葬で、自衛隊が演奏した2曲のうち、1曲は「軍人が戦争で死ぬことを美化礼賛する政治施設」である靖国神社の「聖歌」、もう1曲は戦後に自衛隊の人間が作曲した「大日本帝国時代の精神文化の天皇崇拜を継承する歌」だった▼8月15日、閏